

ツチグリ



能竹にて

(撮影：桐原真希)

シバグリやヤマグリは聞いたことがあるけれど、ツチグリって何？と思った方も多いと思います。木の实なのか、ヒトデなのか、正体不明な奇妙な物体。実はこれ、キノコの仲間なのです。

ちよつとした林道や散策道で無造作に転がっているツチグリは、不思議な事に地面とつながっていません。他のキノコは、土や枯木からニョキッと生えています。ツチグリの手にとってひっくり返しても根のようなものはなく、まさに空から降ってきたものがそこに落ちているような状態で見つかります。これは、このキノコが菌糸を根のように張らずに土の中でゆつくりと大きくなり、成長するにつれ地表面に出て来るため、ヒトデのような殻を開いた時、斜面から転がって道に落ちるものもあります。

去年私は、近所の斜面林で見つけたツチグリをいくつか持ち帰りました。そして自宅の縁側に並べて置いておきました。翌日写真を撮ろうとツチグリを見てみたら、開いていた星の形が内側に丸まっ

て、ひからびた小さな柿のように変身していたのです。同じキノコとは思えない変化に、はじめは「あれ？昨日のツチグリどこにいったの？」と思いました。試しに、ひからびたツチグリを水に漬けて込んだら、半日で星形にまんじゅうのついた元の姿になりました。この星形の部分が湿度によって開閉することから、学名はラテン語で「星形の湿度計」という意味の名を付けられています。

宮崎県高千穂町では、ツチグリのことを「けーころ(蹴転)」と呼び、まんまるで半分土の中に埋もれた未熟なツチグリを、みそ汁などに入れて食べているそうです。目安は、半分に切った時、中身が白いものがよいとか。私は、ツチグリは食べられないものだと思い込んでいたので、改めてツチグリのことを調べて食用になることを知り、嬉しいシヨックを受けました。是非味わってみたいので、この秋は「山の幸」にもなるツチグリの赤ちゃんを探してみようと思います。

自然察指導員 桐原真希